

中学生からの質問を考える

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

(1) はようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。

(2) 私は時々依頼を受けて、公立の中学校や高校でお話をさせていただくことがあります。2月15日には、私もメンバーの一人となっている群馬経済同友会からの依頼で、群馬県の渋川市立赤城南中学校に行き、52名の1年生の皆さんの前でお話をしてきました。また、今週22日の月曜日には、東京の経済同友会から派遣されて、東京都墨田区立墨田中学校の1年生2クラスでお話をさせていただきました。

(3) どのような内容のお話がよいかを事前にお聞きしたところ、墨田中学校の皆さんから質問がきました。今の中学生はどのようなことに関心を持っているのか、放送をお聴きの皆様も一緒に考えていただきたいと思います。

2. 中学生からの質問を考える

(1) 質問の1つめは、「人に好かれるためにはどうしたらよいですか」というものでした。それに対して私は、「自分がされて嫌なことは、人にしない。相手の感情を押し量るようにするとよいでしょう」と答えました。

(2) 2つめは、「どうしたらよい人になれるか」という質問です。

これはなかなか難しい質問ですので、皆様もぜひお考え下さい。私は、「ルールの中でプレイをすることだ」と答えました。社会や組織などのいろいろなグループの中にはルールがありますが、そのルールの中でプレイしている分にはあまり悪い人にはならないと思います。その中でも一番大切なのは、フェアプレイの精神です。それは、美しい生き方をすることであり、フェアなやり方をすることです。

また、何がルールかわからないと困ったことになりますので、ルールを知る努力をすることも大事です。具体的に言うと、犯罪を犯す人はよくない人ですが、何が犯罪なのかわからないと誤って犯罪を犯してしまうこともあると思います。そこで、何が社会のルールなのか、何が犯罪にあたるのかをよく知ることが大事になります。

それから、社会の問題がよくわからないと間違っただけをしてしまうこともあります。そこで、新聞をよく読んで自分の頭でよく考え、目の前で起こっていることを批判的に見るようにすると、悪いことを行う確率も少なくなります。2 つめの質問に答えて、このようなお話をしました。

(3)3 つめの質問は、「勉強の仕方を教えてください」でした。これに、私は次のように答えました。まず、学習を 3 つの段階に分けます。1 段階は、学習した内容を「うんなるほど」と腑（ふ）に落ちるようにすることで、私はこれを「理解」と呼んでいます。「理解」するためには、学校の先生のお話をよく聴くことが大事です。また、教科書をはじめとするいろいろな教材の内容を、辞書を引いて調べながら、そして 1 つ 1 つの言葉の意味を考えながら「うんなるほど」と腑に落ちるまでにすることが大事であると思います。

第 2 段階は、「うんなるほど」と一度よく「理解」したことを身に付けることです。そのためには、声に出して読む「音読練習」や「書き取り練習」、問題を見た瞬間にパッパッと答えが出せるようにする「計算・問題練習」をするとよいと思います。

そして最後は、自分の行きたい学校の入学試験に受かるために、今までに出題された問題を 5 年～10 年分、1 問につき 5 回～10 回ずつ繰り返し解くのがよいと思います。

成果の上がる勉強の仕方をまとめると、よく「理解」をして、それを身に付け、さらには自分の行きたい学校の合格へ向けて今までに出題された問題を繰り返し繰り返し勉強するのがよいということになります。

(4)4 つめの質問は、「勉強はどのようにしたら楽しくできますか」というものでした。

「何のために勉強をするのか」という自覚を持って勉強することが、楽しく、そしてストレスなく勉強できる 1 つのコツです。

そのためには、きっかけをつかむことが大切であると思います。例えば、新聞・本・いろいろな人物の伝記などを読んで、どのような生き方をしたらよいかを考えながら、勉強のきっかけをつかむことが大事かもしれません。また、図書館に行っているいろいろな本を読んだり、博物館や美術館、音楽ホールなどに行って歴史を知ったり素晴らしい芸術に触れたりするのもよいでしょう。それから、旅行をして世の中にはいろいろなところがあることを知ることが、きっかけになることもあると思います。

さらに、勉強したことが世の中に出てどのように役に立つのかを考えると、勉強が楽しくできると思います。

(5)5 つめは、「今までで一番嫌だったことは何ですか」という質問でした。

身近な人が亡くなるのが一番嫌なことです。私は、友だちを交通事故で亡くしたことがあります。

ますし、親族や友だちを病気で亡くしたこともありますので、一番辛かったのはやはり身近な人が亡くなったことです。ですから、事故に遭わず、また、病気をしないでいつまでも若々しく生きることが一番大切であると思っています。

(6)6つめの質問は、「どのようにしたら学習塾の塾長になれるのですか」というものでした。

学習塾の塾長には誰でもなれます。学習塾は参入障壁がゼロですので、「何のために塾生の皆さんに教えるのか」が明確になっていれば、誰でもなれます。

(7)最後の質問は難しく、「人は何のために生まれて、何のために生きるのか」でした。

1つの答えは、人は死んだあとに後の世に何が遺せるのかということです。内村鑑三という方は、「お金を遺して遺族の方々に有効に使ってもらうことも大事、1つの仕事を遺してそれを立派に受け継いでももらうことも大事、書いたものや芸術作品などを遺して後の人々に見ていただくことも1つの生き方、人に教えることでその人に立派に生きていただくことも大事、さらに『あの人はあのような生き方をしたのだな』とたとえ一人でも知っている人たちに記憶していただけるというのも1つの生き方である」と述べています。

「人は何のために生まれて、何のために生きていくのか」ということには、お金のためか、事業を遺すためか、作品を遺すためか、人に教えて教育をするためか、それともよりよく生きて「あのような生き方をしたのだな」と知ってもらうためかなどいろいろありますが、とにかくよく生きることが大事であると思います。

3. おわりに

難しい質問で適切に答えられたかどうかわかりませんが、放送をお聴きの皆さんに、中学1年生はこのようなことを考えているのだということを知っていただきたいと思い、紹介させていただきました。

- 2010年11月18日 林明夫記 -